

日本原子力学会 核燃料部会
令和6年度第三回運営小委員会議事録

日時：令和6年11月7日（木）14:00～16:30 於 WEB 会議(Webex)

出席者：尾形部会長，逢坂副部会長，渡部副部会長，阿部委員，有馬委員，宇田川委員，宇埜委員，片山委員，樽松委員，黒崎委員，佐藤委員，園田委員，鶴田委員，中居委員，中西委員，松永委員，浦野（記）

議事：

0. 開催挨拶

運営小委員会開催にあたり，尾形部会長からご挨拶をいただいた。

1. 前回議事録等の確認（資料1）

前回（令和6年度第三回）議事録は，確認済みであり，配布のみ。

2-1. 令和6年度核燃料部会業務分担について（資料2-1）

浦野から，令和6年度核燃料部会業務分担の変更点として委員交代（川本委員→西岡委員）について説明した。

また，新委員となった西岡委員からご挨拶いただいた。

2-2. 2025・2026年度代議員選挙に係る部会推薦候補者の推薦について（資料2-2）

渡部副部会長より2025・2026年度代議員として尾形部会長と逢坂副部会長を推薦することについて提案があり，審議承認された。

3. 令和6年度収支実績と令和7年度予算について（資料3）

松永委員及び浦野から，令和6年度の収支実績及び令和7年度予算案について紹介し，報告した内容にて手続きを進めていくこととした。

片山委員から，繰越金から TopFuel への支出が今年度発生する旨共有があり，必要に応じて本部提出資料に反映することとした。

4-1. 企画小委員会の概要について（資料4-1）

逢坂副部会長から，本年10月23日に開催された企画小委員会の内容について，説明があった。

4-2. 連載講座の作成について（資料4-2）

佐藤委員から，連載講座に関する検討内容の紹介と意見募集を行った。尾形部会長より，シミュレーションの取扱範囲は非常に幅広いためどのような方向性を選ぶかが非常に重要であり，もう少し議論を重ねてもいいのでは，とのご意見があった。このため，テーマについては引き続き検討することとし，11月末時点の事務局への回答文案は逢坂副部会長と佐藤委員にて検討いただくこ

ととした。

5—1. 「2024 年秋の大会」における核燃料部会学会講演賞の選考について（資料 5-1）

園田委員から、核燃料部会学会講演賞の受賞者案として2名が提案され、審議承認された。

また園田委員から、評価結果の応募者へのフィードバックの可否およびフィードバック方法について提案があり、議論の結果、評価者のコメントリストをベースに応募者へのフィードバック文案を園田委員に作成いただき、その内容を運営小委委員がメールで確認することとした。また、次回以降も評価者コメントを応募者へフィードバックをするのであれば、評価者にも事前にその旨を伝えたいと評価していただくこととした。

5—2. 第13回（2024年度）核燃料部会奨励賞の推薦募集について（資料 5-2-1、5-2-2）

園田委員から、核燃料部会奨励賞の推薦募集について説明があり、審議承認された。

6. 2024 年秋の大会の企画セッションのご報告（資料 6）

佐藤委員から、秋の大会で実施した企画セッションの結果について報告された。また、今回扱ったテーマについては、今後も継続して議論していくことで考えている旨、紹介があった。

7. 2025 年春の年会での企画セッションについて（資料 7）

佐藤委員から、2025 年春の年会での核燃料部会企画セッションの検討状況について報告された。今後の方針として、2025 年春の企画セッションはスキップとすること、「炉心燃料分科会の L T A サブWG の成果」は関係者で調整すること、「核燃料サイクルにおける燃料分野の課題と期待」について他部会とも調整を行っていくことが紹介され、この方針について尾形部会長より同意の意向が示された。

また、企画小委員会や全体会議のような機会に議論をしてはどうかとの意見が挙げられた。

8—1. 2024 年度夏期セミナーの開催報告について（資料 8-1）

宇田川委員から、2024 年 8 月 5 日～7 日に三部会合同で開催された 2024 年度夏期セミナーの開催結果について報告された。

8—2. 2025 年度夏期セミナーについて（資料 8-2）

松永委員から、2025 年度の夏期セミナーの検討状況が報告された。今後のスケジュールについても紹介があり、特段異論は示されず、スケジュールに沿

って引き続き検討を進めていくこととした。

9. 核燃料部会報について（資料 9）

鶴田委員から、核燃料部会報 No. 60-1（2025 年 1 月頃発行予定）の進捗について紹介があった。巻頭言についてはホームページに掲載されている部会長就任挨拶をそのまま記載することを確認した。国際会議紹介について、NuMat は参加者 2 名で調整し 1 件の記事として作成することを確認した。また TopFuel については JAEA 殿から追加で 1 名執筆者の推薦があったため、執筆者は計 4 名となった。記事をそれぞれ執筆するか 1 件にまとめるかについては、鶴田委員が執筆者と相談して決めることとした。

今後、各執筆者に対して鶴田委員からメールにて執筆依頼が送付される。

10. 部会等運営委員会からの連絡事項（資料 10）

渡部副部長から、2024 年 10 月 21 日に開催された部会等運営委員会の内容について紹介があった。2025 年春の大会はオンライン開催予定だが、計算科学技術部会は春の大会にあわせて対面による部会集会を開催することを提案し、承認されたとの報告があり、尾形部会長より、部会とセッションの関係についての考え方を機会があれば確認してほしいとの要望があった。

11. 事故耐性燃料に関するワークショップへの協賛依頼について（資料 11）

逢坂副部長から、2024 年 12 月 11 日に開催が予定されている事故耐性燃料に関するワークショップへの協賛依頼について説明があった。例年核燃料部会は協賛しているものであり、今年度の協賛についても審議承認された。

12. IAEA TECDOC 発行に係るアンケートへの回答可否について（資料 12）

逢坂副部長から、IAEA が発行予定の TECDOC ” Structural Behaviors of Fuel Assemblies in Light Water Cooled Reactors” へのフィードバックとして TWGFPT 委員宛に出されたアンケートへの回答可否等について意見募集があった。

渡部副部長、鶴田委員、片山委員および 2022 年に開催された IAEA の関連技術会議参加者にて相談のうえ回答案を作成し、逢坂副部長へ送付いただくこととした。

13. その他

核燃料部会の全体会議はオンラインで開催される春の年会にあわせて実施することを確認した。また、全体会議等の機会に来年度以降の運営小委の開催頻度を増やすことについて検討していく旨、尾形部会長よりご発言があった。

次回、令和 6 年度第四回運営小委員会は、令和 7 年 2 月 21 日（金）9 時 30 分から WEB 開催することとした。

以 上